

府中市健康地域づくり審議会
第5回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成26年6月24日（火）10時から11時25分
- 2 場 所：市役所2階第一応接室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）
重森由枝（分科会委員） 前原裕吉（分科会委員）
藤本命壮（分科会委員） 佐藤真二（分科会委員）
宮口英昭（分科会委員）
- 4 欠席者：寺岡 暉（職権委員）

5 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事

① 「生きがい創業ビジネス補助金」について

広島県高齢者健康福祉大学（プラチナ大学）の開校

●関連資料の説明

これまで、「生きがいを持って暮らす元気高齢者の増加と要介護期間の短縮」を政策指標として4回の分科会を開き、それを第1次提言として、市に生きがいを持った元気高齢者を増やすための提言を行っていただいた。この提言をもとに今年度予算化した「生きがい創業ビジネス補助金」100万円について、趣旨、対象事業、対象経費等の項目ごとに、制度を効果あるものにするためにはどういった要綱を作成すればいいのかを議論するための説明を行った。

あわせて、今年度府中市で開校する「プラチナ大学」について説明した。

●質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

- 雇用を増やすということであれば、規模を拡大するというものでもいいのではないか。また、雇用契約を結ぶのか等、雇用という形態をどこまで認めるかという整理は必要である。
- 継続性のある事業ということで、最低でも3年とか5年としておいて、1年か2年で廃業したら返還してもらうことにしなければならない。
- この補助金をいただけるのであれば、何ができるだろうかと考えている

- が思いつかない。65歳以上の人たちに30万あったら何に使うだろうか。
- 補助率2分の1だったら、上限30万円とすると60万円で何かするということになる。
 - 30万円の補助金額では設備投資になってしまう。そして、年に1回報告書等で様々な書類を作るのが面倒くさい。
 - 100万円1本にして、コンペで選定する。使い勝手の面から、事業報告もすごく軽くするといい。その方が注目されるのではないか。
 - やはり、高齢者の雇用の創出、生きがいつくりの場づくりという視点を外してはならないので、きちんと事業計画に反映されるべきだ。また、グレーゾーンが出てくると思うので、しっかり整理しなければならない。
 - 審査会の場で、皆の前で発表したり、書類審査だけでなく質疑ができたような審査会だといいいのではないか。そうすることで、継続性をどう考えているのかが見えてくるのではないか。
 - 新規起業というだけでは募集がないかもしれないので、既存事業の拡大も対象として考えておかなければならないのではないか。
 - コンペの段階で、何年続きそうか、何人雇用が増えそうか等を比較し、一番優秀な申請者へ補助金を交付する。
 - 上限100万としておき、1者なら100万円、5者なら20万ずつ分けることにすれば、皆が分かりやすい。補助率2分の1と言われてもよく分からない。
 - そうは言っても補助率は2分の1がいいと思う。
 - 申請する人がプラチナ世代なのか、雇用する人がプラチナ世代なのか。
 - 申請するのはどちらでもいいとなると、若い人がこれの補助金を起業するのに使う可能性があるということになり、その方が継続性はあると思う。
 - 物を教えることで元気をもらう人が、府中には沢山いらっしゃる。創作活動の場を作りたい人のために、そういう教えたい人に教える場を提供するというのはどうか。
 - 雇用という見解が変わってくる。雇用契約ではないということになる。
 - 生きがい創業ビジネス補助金という名前であるので、創業というのが重要な条件になる。
 - ある程度自己資金を準備して、或いは資金調達の方法を思いつく人でないと、続けられないと思う。
 - 相当な意思や思いがある人でないと、最初の補助金だけをもらっても、何をしたのかということになる。

- 三次市が1回の創業に300万出すそうだが、他の事例を調べるということも必要なのではないか。
- 生きがいつくりなら、社協「すけっとや」もシルバーもやっている。ボランティア的なものでも、生きがいになるのではないか。
- ちゃんとやった分だけ返ってくる、努力した分だけ返ってくるというビジネス的な感覚を持ち合わせたボランティアもある。
- 農業委員会で農地を管理しているので、草を刈るように指導していかなければ、農地は荒れるばかりだと思う。その草を刈る部分を起業出来ないだろうか。
- 要綱はあまり詳細を記さず、選定基準の方を厳しくきっちりしたものに選定をしていくというようなイメージが良いと思う。
- 最初にビジネスを立ち上げる時に、普通、収支を見込んでから人を雇うことになるので、人を雇うところからは始めない。
- 雇用または雇用の拡大に限るのか。就労の場全般という形で自身の起業を含めるのか、個人の起業を含めるのか。
- 高齢者がそこに居ながら関わっていくこと、その方が元気な高齢者で有り続けることができるというのが主眼である。
- 応募する人は、元々やりたいことがある人ではないだろうか。ただし、100万円あるから何とかしようという人は、確かに間に合わないと思う。
- 活動の場は、府中市内に限るとする方が良い。
- 府中市内で店舗を構えて、そこからどこへ出ていこうと、市内での活動なので、市内に限定すれば分かりやすいのではないか。
- 経費に関しては、あまり制約することなくむしろ審査の時にビジネスプランをしっかりと見て、透明な審査にすべきである。

② 府中市地域福祉計画について

●関連資料の説明

地域福祉計画は、地域住民の意見を十分に反映させながら市が主体的に策定する計画であり、現行計画同様、熟年元気づくり分科会で審議・承認していただきたい。そして、次期計画では、市の関係課から資料や意見を集約しながら策定を進め、重点プロジェクトについては、熟年元気づくり分科会で提言を受けたことを生かしながら、元気な高齢者が地域を支えることを主眼にして行きたいと考えている。また、具体的施策についても、府中市健康地域づくり審議会の分科会、つまり人生のライフステージに応じた次世代創造、

いきいき世代づくり、熟年元気づくり、長寿サポートといった柱に分けて策定していきたいと思っている、という説明を事務局から行った。

(4) 閉 会

今回出た意見をふまえ、次回の8月の上旬の分科会では、補助金要綱の案及び地域福祉計画の柱を事務局から提示させていただき、確認していただくこと、そして引き続き元気高齢者の増加に向けて議論を続けていく旨を全員で確認し、閉会とした。